

マゴイにおけるウイルス性コイ浮腫症の発生事例

福島県内水面水産試験場 生産技術部

1 部門名

水産業－内水面（増養殖）－コイ

2 担当者名

坂本 啓

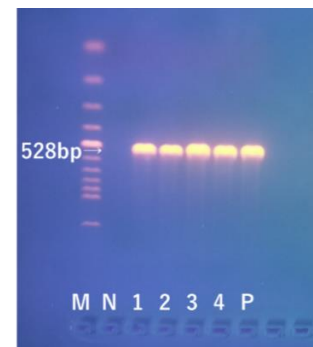
3 要旨

内水面水産試験場で飼育していたマゴイ親魚から、ウイルス性コイ浮腫症（病原体は Carp edema virus : CEV）が確認された。マゴイが CEV で死亡する事例は国内でも非常に稀であり、県内では初の事例であった。その後の発生はなく、継続して県内の防疫体制を徹底していく必要がある。

- (1) 2024 年 6 月にマゴイ親魚が大量にへい死した。4 個体の魚病診断を実施した結果、体表や眼球に出血等はなく、鰓はやや貧血気味であった（図 1）。また、鰓の抽出 DNA を試料とし、CEV の PCR 検査を行ったところ、全ての検体が陽性であった（図 2）。
- (2) CEV は池揚げなどの移動直後に発病しやすい⁽¹⁾と言われ、へい死の発生は採卵作業による移動直後のことであった。採卵移動以外で飼育環境に変化はなく、水温は 19.0～19.3℃であり、これまで毎年採卵を行っているが、へい死が見られたのは初めてであった。また、近年マゴイの導入はなく、感染経路は特定できなかった。



図-1 マゴイの魚病診断状況

図-2 PCR 増幅産物電気泳動結果
(M:100bp DNA Ladder、N:陰性対照、
1-4:検体、P:陽性対照)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 魚類の防疫に関する研究

5 主な参考文献・資料

- (1) 佐野元彦 (2022)、ウイルス性コイ浮腫症（ウイルス性眠り病）、新魚病図鑑第 3 版（監修小川 和夫、佐野 元彦、横山 博、倉田 修）、緑書房、東京、97